青年期発達障害者の内面世界を大切にした支援

セルフアドボカシースキルを育て、主観的幸福感を高めるために

企画者　小島道生（筑波大学人間系）
片岡美華（鹿児島大学教育学系）
司会者　小島道生（筑波大学人間系）
片岡美華（鹿児島大学教育学系）
話題提供者　片岡美華（鹿児島大学教育学系）
北岡大輔（和歌山大学教育学部附属特別支援学校）
小島道生（筑波大学人間系）
指定討論者　別府　哲（岐阜大学教育学部）

KEY WORDS: 発達障害、内面世界、セルフアドボカシー、自己理解、主観的幸福感

【企画趣旨】

発達障害者の支援においては、自己理解や自尊感情など本人の内面世界を重視した支援の重要性が数多く指摘されてきている。なかでも、青年期発達障害者の支援においては、スキル獲得支援だけでなく、本人の願い、夢、そして主観的幸福感などを大切にしつつ、生涯を通して豊かな生活を送れるように支援を進めていくことが望まれる。

一方､我が国においては障害者差別解消法の施行により、「意思の表明」が重視され、本人自らセルフアドボカシースキルを発揮することが求められている。セルフアドボカシースキルを発揮するためには、自己理解や提唱力が欠かせない。

こうした時代において､青年期発達障害者がたくましく、そして幸福感をより強く感じながら生きていくためには、どのような支援が求められるのか。本シンポジウムでは、セルフアドボカシースキルを育てるために、自己理解や主観的幸福感という内面世界にも焦点を当てた研究や支援に関する話題提供を通して、新たな支援の在り方について追究していく。

【話題提供者の趣旨】

セルフアドボカシーと特別支援教育

片岡　美華（鹿児島大学教育学系）

障害者差別解消法の施行により、合理的配慮が提供されることとなったが、その際は「意思の表明があった場合」とされる。このことは、筆者がセルフアドボカシースキル（SAS）のキーワードとして考える、支援内容を自ら分かる自己理解と、支援を求める提唱力とが大いに関係があると考えられる。セルフアドボカシー（SA）は、自己権利擁護と訳され、障害者の自己選択と自己決定の上で重要な活動とされる。日本では、これまで知的障害を中心とした当事者活動として福祉分野で発展してきたが、その獲得と行使について教育的視点からの検討が必要であると思われる。特別支援教育では、自立活動やキャリア教育において、その語は用いられていないものの、事実上 SA の力が求められているといえ、この力を学校教育等でどのように指導していくかが課題である。とりわけ発達障害者においては、困難さが他者から気づかれにくい点や、人にお願いする際のコミュニケーションが苦手な点などから特に SAS が必要であると言えよう。そこで本報告では、改めて SA の定義、略歴、教育との関連について押さえ、発達障害者にとっての必要性を、合理的配慮の視点を絡めて検討を図りたい。

自分の思いの意識化からはじめるセルフアドボカシー

北岡大輔（和歌山大学教育学部附属特別支援学校）

知的障害や発達障害のある子どもたちは、自分の心の状態を客観的に捉えることが苦手である場合が多い。とりわけ、思春期・青年期を迎えた子どもたちはより心の状態が複雑化するため、悩みや困り感を抱えていても、まず自分自身がそのことを的確に意識化できず、周囲も気づかないままになってしまうことが少なくない。このような状態が積もり続けていくと、場合によってはいわゆる不適応行動として表面化してしまうことも危惧される。これらのことは、知的障害や発達障害のある人にとってのセルフアドボカシーを困難にしている一因であるように思われる。

以上のことから、知的障害や発達障害のある子どもたちが、自らの要求や意思、困り感などを他者へと伝えるセルフアドボカシースキルを身につけていくためには、まず、自分の心の状態に目を向け、意識化し、整理していく過程を支援することが重要となる。そのための具体的な支援について、事例を通して考えてみたい。

青年期 ASD 者の主観的幸福感とセルフアドボカシー

小島道生（筑波大学人間系）

発達障害者の支援において、本人が主観的幸福感を高めるように支援を行っていくことは、支援の根幹ともいえよう。しかしながら、我が国においては、青年期発達障害者を対象とした主観的幸福感に関する研究成果は、報告されておらず、その実態やささえる要因などについて十分に明らかにされてこなかった。

本報告では、青年期 ASD 者の主観的幸福感に関する研究成果を紹介し、当事者の内面世界を大切にした支援の在り方について提案する。そして、主観的幸福感をささえる要因の検証から、セルフアドボカシーの機能について心理学的に論考し、自立に向けた支援の在り方について報告する。

【指定討論者の趣旨】

別府哲氏より、これまでの発達障害者の内面世界に関する研究や発達心理学の知見を踏まえながら、発達障害者の内面世界を大切にした支援の在り方について指定討論を行って頂く。

(KOJIMA Michio, KATAOKA Mika, KITAOKA Daisuke, BEPPU Satoshi)